

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-3
文部科学省分館内 TEL 03-3580-0608

来年度を本格的な

学社連携元年に

文部科学省生涯学習政策局社会教育課長

福島 健郎

いよいよ本年四月から完全学校週五日制が実施され、教育改革が本格的に動き出します。学校週五日制導入は、学校、家庭、地域社会が一体となつてそれぞれの教育機能を発揮する中で、子どもたちが自然体験や社会体験などを行う場や機会を増やし、豊かな心やたくましさ育てることを目的としています。その完全実施を契機に、子どもたちを取り巻く教育環境を大きく変えていく必要があると考えています。

先般、学力問題に焦点を当て、遠山文部科学大臣から「学びのすすめ」をアピールしたところですが、「確かな学力の向上」と「心の教育」の問題は、現在、わが省が推進している教育改革において両輪をなすもの

であり、この両者をあわせて進めていかなければなりません。

「心の教育」の充実を図るには、家庭教育の向上を図るとともに、学校内外を通じて子どもたちの様々な体験活動の充実を図ることが非常に重要です。いわゆる学力問題の背景として、子どもたちの学習意欲の喪失等も指摘されていますが、体験活動は、目的を持って学習に取り組み、自分で課題を見つけ、よりよく問題を解決する能力を育てることなどにつながり、子どもたちが真の意味での学力を身につける上でも大変重要です。

そして、体験活動の充実を図るためには、学校教育と社会教育の関係者がしっかりと連携協力体制を

福島 健郎（ふくしま たけお）

昭和31年 埼玉県生まれ

昭和55年 文部省入省

昭和63年 三重県教育委員会指導課長

平成6年 生涯学習局専修学校教育振興室長

平成7年 郵政省放送行政局総務課調査官

平成9年 大臣官房政策課政策企画官

平成10年 初等中等教育局職業教育課長

平成12年 生涯学習局社会教育課長

平成13年 生涯学習政策局社会教育課長



組み、福祉関係者など幅広い関係機関・団体の協力を求めていくことが不可欠です。

そこで、このような体験活動を推進する上でも、また、地域住民が学習成果を生かして学校教育の支援を行い、更には学校を中心として地域コミュニティの活性化を図る上でも、来年度を本格的かつ組織的な学社連携の元年として、積極的な取組を進めていきたいと考えています。

第43回（平成13年度）

全国社会教育研究大会（沖縄大会）を終えて

沖縄県社会教育委員連絡協議会会長 仲地 朝明

世界を震撼させた米国での同時多発テロが大会前にあり、その影響から開催を危惧する声もありました

が、文部科学省をはじめ全国社会教育委員連合、各都道府県社会教育委員連絡協議会、関係機関・団体等のご理解とご支援により、16000名の参加者をお迎えして、予定どおり、10月31日から11月2日まで、那覇市で開催することができました。

今大会は、昨年度（平成12年度）の全国社会教育委員連合の総会において「青少年非行問題に関する緊急アピール」を採択したことを受け、大会スローガンを「新時代を拓く青少年に輝ける未来を」、研究主題を「青少年がたくましく育つ地域づくりを目指して」として全体を構成しました。

第1日目。まず開会式の席上、67名の方々が、社会教育委員功労者として表彰されました。

文部科学省名取はにわ主任社会教育官の講演「生涯学習・社会教育行政の動向」では、国の生涯学習・社会教育行政の今後の方向性について示唆を得ることができました。

シンポジウム「地域再生への挑戦」では、子どもと大人が一緒にがんばる「まちづくり」、「生きる力」を育むために、学校・地域社会が共通の目標を持つことの大切さなどについて、考えることができました。

アトラクションでは、琉球王朝時代の宮廷芸能や、大衆のなかで育まれてきた庶民的な雑踊り、空手舞踊、獅子舞など、本島の文化の一端を紹介できたと思います。



シンポジウム

第2日目は部会別研究協議。

第2部会の「青少年の健全育成」では、青少年育成町民会議が主体となつて取り組む「あいさつ運動」や、不登校の児童・生徒を対象とした「自然体験キャンプ」、学社融合事業としての「鯨海峡セカンドスクール」などの報告がありました。

各部会ともフロアーからの積極的



アトラクション

な参加があり、協議を深めることができました。

第3日目。沖縄学研究所長外間守善先生の記念講演は、文化、歴史、映画、音楽、様々な事例を駆使して、人々がその時代その時代を背景に「安らぎとしあわせを求めて」生きたことのわかる感動的な講演でした。

「今大会は、初日から最終日の宣言決議まで、一貫して研究の主題が生かされた内容で、非常に意義の深い大会であった」と、参加者から多くの声を聞くことができました。

これもひとえに参加者、関係者のみなさまのご協力とご支援の賜と感謝申し上げます。

終わりに、平成14年度の秋田大会の成功を心からお祈りいたします。

第44回（平成14年度） 全国社会教育研究大会（秋田大会）のご案内

大会の概要

大会スローガン 生きる喜びをすべての人々に

研究主題 共に生きる地域社会と家庭の創造をめざして

期日 平成14年10月9日（水）～11日（金）〔3日間〕

主会場 秋田県民会館（秋田市千秋明徳町2-52）

大会日程

- 〔第1日〕10月9日（水）
- 開会行事 13:00～14:00
 - 基調講演 14:00～15:30（文部科学省に依頼中）
 - アトラクション 15:45～16:30「若さで伝える秋田のまつり」
- 〔第2日〕10月10日（木）
- 部会別研究協議 10:00～15:30（8部会）
- 8部会のうち家庭教育部会の3部会（第6～8部会）は、前半（10:00～12:00）は、シンポジウムを行います。テーマ「共に生きる地域社会と家庭の創造をめざして」。後半は部会別に分かれ研究協議を行います。
- 〔第3日〕10月11日（金）
- 記念講演 10:00～11:30
仮題「親子のスキンシップを考える」 講師 秋田県立総合プール名誉館長 長崎宏子氏
 - 大会宣言文決議 11:30～11:40
 - 閉会行事 11:40～12:00

大会の特徴

第1日の基調講演では、教育改革に伴い社会教育・家庭教育をどのように推進していくか、文部科学省「21世紀教育新生プラン」等による展望について、共通理解を図ります。

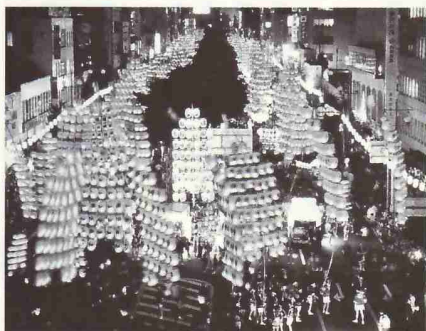
第2日の部会別研究協議は、8部会を設定しました。特に、家庭教育については、「専門部会」と位置づけ、3つの部会を設定しました。課題の共通認識を図るねらいから、午前は家庭教育部会3部会共通のシンポジウムを行います。午後は、それぞれのテーマに分かれて研究協議を行います。

第3日の記念講演は、秋田市出身で元水泳オリンピック日本代表の長崎宏子さんにお話し、親子のスキンシップを中心にお話させていただきます。

来てたんせ 美しき人の郷 秋田へ！

「美」の冠がついた秋田はいくつもあります。代表的なものは秋田美人、秋田美酒、日本3大美林秋田杉、美味しい秋田米……。

こうした美しさは、長い年月を経て、純朴に生きた人々が作りあげてきたものです。世界遺産の森から野山の隅々まで、美人や酒、お米を育てた水が今も流れる秋田にぜひお触れください。



竿燈祭り

さて、今大会は全ての会場が、秋田駅から徒歩で10分以内のところであり、部会間も徒歩で移動できます。ぜひ、「美しき人の郷秋田」の大会へお出かけくださるよう、ご案内申し上げます。

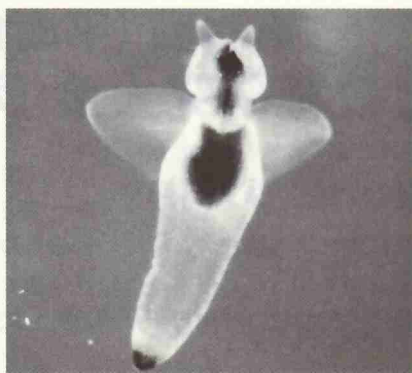
秋田県社会教育委員連絡協議会
会長 宮越 道晃

この大会は、平成14年度東北地区社会教育研究大会と兼ねて開催されます。

平成十三年度

「地区社会教育研究大会」の報告

北海道地区



流水の下の天使—クリオネ

明や情報提供をいただいたことである。

講演は「オホーツクタワー周辺の海洋生物の四季」と題して、地元の水産研究所の方にお願ひし、実践発表では、「虫夢友の会」が運営する自然体験の村「虫夢常呂昆虫の家」の実情や「カーリングによる町づくり」など、若者が生き生きと発表する姿に感激！「住民と共に創るまちづくり」が、着実に進められている兆しが随所に感じられた大会であった。

北海道社会教育委員連絡協議会
事務局長 黒崎 匡俊

東北地区

福島県で九月一九・二〇日開催された東北大会は、石川町母畑温泉八幡屋をメイン会場に、「うつくしま未来博」を見学会場として行われた。

基調講演では、ふくしまアクアマリウム館長安部義孝さんから、社会教育施設の果たす役割についてスライドを用いて、豊かな経験に基づいた話があった。



大会風景

シンポジウムでは、市町村の社会教育委員や社会教育主事の果たすべき役割について議論が交わされ、参加者からも大変好評であった。

初めて「森」で開催された「うつくしま未来博」の見学研修では、参加者全体が、テーマである環境問題・循環の思想に触れながら認識を深めることができた。参加者六二四人。

福島県教育委員会生涯学習課
本間 貞二

関東甲信越静地区

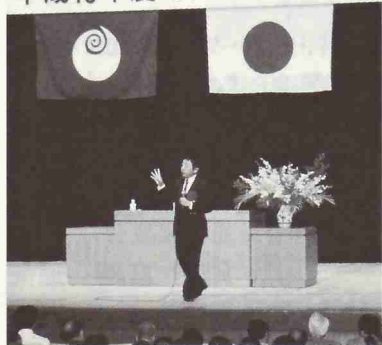
去る九月二〇・二二日の二日間、茨城県水戸市にある茨城県立県民文化センターを主会場にして、一部一〇県から一七五〇名を超える参加者が一堂に会し、時代に即応した研究が盛大に開催された。

第一日目には、開会行事の後、文部科学省大臣官房審議官 寺脇研氏が「進む教育改革」の演題で一時間余りの基調講演。続いて「音楽と私」と題して作曲家 池辺晋一郎氏の記念講演が行われた。

第二日目には、七分科会に分かれ、一四人の事例発表の後熱心な協議が展開され、次年度開催される山梨県にバトンタッチされた。

茨城県社会教育委員連絡協議会
事務局長 中田 孝

茨城県社会教育委員連絡協議会



基調講演

東海・北陸地区



アトラクション

日時 平成一三年一〇月四日(木) 五日(金)

会場 富山県民会館

パレブラン高志会館

参加者 一二〇九人

学校週五日制の完全実施を目前に控え、第一分科会「家庭教育」第四分科会「青少年教育」を中心に、どの分科会でも土曜日・日曜日の子どもたちを含めた活動の企画や運営が具体的に提案され、家庭教育への支援や地域における子どもの居場所作りへの意識の高まりが伺えた。また、地域づくりを学校と地域が連携して進め、そこで生涯学習の成果や社会教育のノウハウを生かそうとする実

践もいくつか発表された。

富山県教育委員会生涯学習室

池原 哲夫

近畿地区



展示会風景

近畿地区大会は、「生涯学習社会に向けた学社連携・融合」を研究主題に、平成一三年九月六日～七日、和歌山県白浜町で約一二五〇名の参加を得て開催された。

開会行事に続いて、障害のある方々により結成された「あすなろ楽団」と大塔村立三川小学校の児童が合同で演奏し、参加者に大きな感動を与えた。文部科学省寺脇研審議官による教育改革についての基調講演の後、博物館と学校との連携について、二つの先進的な事例が発表された。

二日目は、「ともに学び ともに育つ」をテーマにシンポジウムが行われ、会場からも活発に質問や意見が寄せられ、大変意義深いものとなった。

また、今大会は、近畿各地の学社連携に係る実践事例の資料を展示して、情報交換を行うなど、「学社連携・融合」の視点から、社会教育の充実と発展について考える絶好の機会となった。

和歌山県教育委員会生涯学習課

玉井 伸幸

中国・四国地区



シンポジウム

平成一三年八月三〇日から三二日まで、岡山市民会館をメイン会場に、約七五〇名の参加を得て開催した。

第一日目、財団法人大原美術館理事

長 大原謙一郎氏による「地域と文化と社会教育」と題した記念講演で

は、社会教育委員は「レイ・エクスパート」であれ、という言葉が印象的であった。高校生のユーモアあふれる備中神楽のアトラクション、さらに四分科会でも活発な意見交換が行われた。二日目は、分科会報告の後、「地域の子どもは地域で育てる教育環境づくり」をテーマにシンポジウムがあり、地域でのすばらしい取り組みの発表があった。最後に青少年の健全育成を中心とした大会宣言を満場一致で採択した。

岡山県教育委員会生涯学習課

福島 治子

平成14年度 海外研修事業の中止について

みなさまからご好評をいただきありがとうございました。「ヨーロッパ社会教育視察団」は、同時多発テロ以降、世界がいまだ不安定な情勢にあることから、平成14年度もお休みさせていただく予定です。参加を予定されていた方には大変申し訳ありません。ご了承ください。よろしくお願いいたします。

2 奉仕活動・体験活動等の推進

31億2千万円（平成13年度27億6千万円）

主な事業

奉仕活動等の推進体制の整備

青少年に社会性や思いやりの心など、豊かな人間性を育むため、先般の「学校教育法」「社会教育法」の改正を受け、学校内外を通じた奉仕活動・体験活動の機会の充実を図る事業を新たに開始します。

事業内容としては、国・都道府県・市町村において、幅広い関係機関・団体と連携を図るための協議会を組織するとともに、学校や社会教育活動の現場などへの情報提供やコーディネートなどを行う支援センターを設置し、学校教育・社会教育を通じた青少年の奉仕活動・体験活動の推進体制を整備、さらには18歳後の青年等の奉仕活動を充実するための環境の整備を図ります。

また、奉仕活動、体験活動に関する調査研究や、全国的に普及啓発を行うための「全国推進フォーラム」を実施します。

生涯学習施策の推進（エル・ネット、博物館、男女共同参画）

社会教育施設が、地域の情報拠点としての事業を展開できるように、ITを活用した生涯学習事業の企画立案・運営を「エル・ネット」により支援します。

また、科学系博物館の豊富な学習資源や教育機能を、地域において積極的に活用するため、学芸員や教員、地域住民等による、科学系博物館を利用した学習プログラムの共同開発などのモデル事業を実施します。

さらに、女性と男性がともに自立し、多様な働き方、生き方を実現し、男女共同参画の問題に柔軟に対応出来るよう、女性のエンパワーメント促

進に加えて、新たに男性の家庭生活・地域への参画を支援する「男女の家庭、地域生活充実支援事業」を実施します。

3 社会人キャリアアップ等生涯学習機能の高度化

113億2千万円（平成13年度123億7千万円）

主な事業

大学・専修学校等における社会人キャリアアップの推進

大学、大学院、専修学校などにおいて、産官学の連携による先導的プログラムの開発や講座の提供等を推進し、キャリアアップを目指す社会人の受け入れ体制を緊急に整備します。

専修学校教育の振興

専修学校におけるITスペシャリスト等の養成プログラムの充実や、産学連携による高度職業人の育成、運営改善に関する調査指導を行います。

放送大学の充実・整備

平成14年度からの大学院の学生受け入れなどに必要な経費の充実を図るほか「学習センター」の計画的整備を推進します。

4 教育改革推進のための総合的研究開発等

21世紀にふさわしい教育の在り方を目指して教育改革を進めるため、「学校基本調査」などの教育統計調査や、社会教育行政上の基礎資料を得ることを目的とした「社会教育調査」（3年毎に実施）を実施します。

また、教育情報ナショナルセンターにおいては、ミレニアム・プロジェクト「教育の情報化」の実現に向け、子ども、大人、先生などの利用者に合わせた、適切な情報の提供、教員による「分かる授業」の実践や研修等に対する支援など、センターの機能の高度化を図ります。

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

好評発売中

改訂 社会教育法解説

平成13年の改正に対応

井内慶次郎 山本恒夫 浅井経子 共著

定価 1,000円(税別)

発行 (財)全日本社会教育連合会

TEL 03-3580-0608

好評発売中

生涯学習社会の社会教育

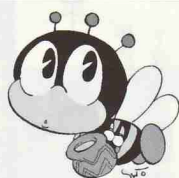
— 社会教育委員必携 —

伊藤俊夫 編

定価 1,200円(税別)

発行 (財)全日本社会教育連合会

TEL 03-3580-0608



のあらまし

平成14年度
文部科学省生涯学習政策局関係予算(案)

平成14年度の生涯学習政策局関係予算(案)の総額は、286億8千万円(平成13年度294億2千万円)。主な施策は次のとおりです。

1 地域・家庭の教育力の活性化の推進

65億6千万円(平成13年度60億5千万円)

主な事業

子ども放課後・週末活動等支援事業

平成14年度からの「完全学校週5日制」の実施など子どもをめぐる新たな課題に対応し、地域で子どもを育てる環境を充実するため、学校や社会教育施設、スポーツ施設などを拠点に、地域のスポーツ指導者、大学生、高齢者などを活用し、放課後や週末の子どもの活動を支援します。

「子どもたちの居場所再生事業」

「地域ふれあいサポート事業」

「地域・学校パートナーシップ事業」

「専修学校子どもウイークエンドスクール事業」

「子どもの科学・理科の楽しさ再発見事業」

「キープエコロジー事業」

「放課後子どもスポーツ活動活性化事業」

図書館の地域IT学習情報拠点化推進事業

全ての国民がITの恩恵を享受できる社会の実現のために、図書館を地域におけるIT学習プラザとして位置付け、利用者用パソコンを配置し、地域の人々のIT技術の向上や各種の情報入手の拠点としての機能を整備します。

地域NPOとの連携による地域学習活動活性化支援事業

地域や家庭の教育力の低下、情報リテラシーの育成などさまざまな課題について、人々が身近な問題として関心を持ち、地域全体で課題解決に取り組むことが出来るよう、行政とNPOをはじめとする民間団体との連携による、地域学習活動の活性化を図ります。

子育て学習の全国展開等

「就学時健診」などの機会を活用した子育て講座を全国的に実施します。また平成14年度から「妊娠期にある親を対象とした子育て講座」を創設。さらに「思春期の子どもを持つ親のための子育て講座」の拡充をはかります。

また、子育てに対して不安や悩みを持つ親が気軽に相談できる、子育て経験者などによる「子育てサポーター」を拡充。さらに、サポーターへの助言や、親に対するカウンセリングを行う、臨床心理士などによる「家庭教育アドバイザー」の創設を図るほか、子育てサークルなどへの支援の充実を図ります。

好評発売中

学校と地域の教育力を結ぶ

—子どもたちに豊かな体験を—

伊藤俊夫 編

定価 1,500円(税別)

発行 (財)全日本社会教育連合会

TEL 03-3580-0608

近日刊行予定

市民が主役のまちづくり

好評まちづくりシリーズ

福留 強 著

定価 未定

発行 (財)全日本社会教育連合会

TEL 03-3580-0608

「社教連」だより

平成13年度第2回総会

平成15年度全国大会は奈良県に

平成13年度第2回総会が、平成13年10月31日、全国社会教育研究大会の開催にあわせて、沖縄県立武道館で開催されました。議案は2件。

第1号議案 第44回(平成14年度)全国社会教育研究大会の開催について

宮越道晃副会長(秋田県会長)から、開催概要案にもとづき説明があり、平成14年10月9日(水)から11日(金)の3日間、大会スローガンを「生きる喜びをすべての人々で」、研究主題を「共に生きる地域社会と家庭の創造をめざして」として、秋田県民会館を主会場に開催することが満場一致で承認されました。

第2号議案 第45回(平成15年度)全国社会教育研究大会の開催地区について

事務局から、第45回(平成15年度)全国社会教育研究大会の開催地区は近畿地区になる旨発言。

これを受けて、奈良県高橋史郎会長から、奈良県が開催を引き受ける旨発言。全員異議なく承認されました。

平成13年度第1回臨時理事会

平成13年11月1日、沖縄県青年会館において臨時理事会が開催されました。

議題は「社教連をめぐる諸問題について」

基本財産の利子収入の大幅な減少、国庫補助金の減額、町村合併と、今後とも厳しい財政運営が予想される「社教連」の諸問題について活発な協議が行われました。

協議の結果、今後できるだけ経費を抑えて行かざるを得ないとして、当面、平成14年度予算の編成方針と

して、次ぎの点が確認されました。

- ①表彰記念品は中止する。
- ②「大会研究資料」は配布方法等について検討。
- ③5月の総会の後の「懇親会」は廃止する。

平成13年度第2回臨時理事会

会長に宮越道晃副会長(秋田県)が選任される。

東京都社会教育委員の任期満了に伴い鈴木勲会長が辞任、後任の会長を選任するための臨時理事会が平成14年2月25日、ホテルフロラシオン

青山において開催されました。

理事の互選により、宮越道晃副会長が会長に選任され、前会長の残任期間、会長を勤めることとなりました。またこれに伴い欠員となる副会長(2名のうち1名)には、同じ東北地区の鈴木完一理事(福島県)が選任されました。

平成14年度第1回理事会・総会(予定)

平成14年5月10日(金) ホテルフロラシオン青山において(追って文書でご案内します)

平成14年度各地区社会教育研究大会の準備がすすんでいます。

北海道地区

期日 14年10月17日(木)~18(金)
会場 北海道士別市(市民文化センターほか)
研究主題

21世紀を心豊かに生きる社会教育の役割(仮)
~住民と共に創るまちづくりをめざして~

東北地区(秋田県で開催の全国社会教育研究大会と兼ねる)

関東甲信越静地区

期日 14年9月19日(木)~20日(金)
会場 山梨県甲府市 山梨学院大学・同短期大学
研究主題

変動する社会に対応する新しい社会教育のあり方

東海北陸地区

期日 14年10月24日(木)~25日(金)
会場 石川県七尾市 和倉温泉観光会館ほか
研究主題

新しい時代の変化に対応した社会教育の在り方を考える
~地域で活躍する社会教育委員をめざして~

近畿地区

期日 14年8月29日(木)~30日(金)
会場 大阪市 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
研究主題 未定(3月に決定)

中国・四国地区

期日 14年9月4日(水)~5日(木)
会場 愛媛県松山市 県民文化会館
研究主題

21世紀における社会教育の在り方を目指して

九州地区

期日 14年10月24日(木)~25日(金)
会場 佐賀県 佐賀市文化会館ほか
研究主題

新しい時代に対応した社会教育の在り方をさぐる
~子どもを真ん中に地域の再構築を~